神の報酬と人の義務

大信正　リチヤルド、チエチウ井ツ

惡魔を拒げ、然らば彼爾曹を逃げ去らん（雅各書四章七節）

汝何事にても其報酬を得んとせば、先づ己の爲すべき義務を爲さゞるべからざるなり。物自然の道理なり。されば本文に神の約束し給へる「惡魔爾曹を逃げ去らん」との報酬も、これを得んと思はゞ先づ己の大切なる義務をして其惡魔を拒かざるべからざるなり。故に予は先づこゝに此大切なる義務と此を盡すの方法と幷びに神の約束し給へる幸福なる報酬とを詳論し、かくして熱心屈せず撓まず、惠ある神の報酬を得んがために、勇ましく己の義務を盡すの精神を奬勵さんとぞ思ふ。

第一、惡魔を拒ぐべき義務の事。

夫れ吾等を誘惑し罪を犯さしむる色々の誘導はこれなん吾等の拒か

さるべからざる敵にして、實に人間の本性を燼き滅す火箭とても云ふべきか。吾等は主キリストの曠野にて惡魔よ試みられ給ひし時の如く、惡魔とまのあたり顔を合はすることそなかるべけれ所謂色々の誘惑及び惡しき誘導なぞは、吾等か心の中にある墮落したる靈の働あるべけれどもこれこれ正しく惡魔の表現ならずや。是故に本文を次の如くに言ひ換へなば、修身の上に大に便利あることなるべし。

勇ましく惡魔と戰へ。然らば終にこれを制服し得べしと神約束し給ふなり。

人々若し少しく神の此命令を完ふし、此約束し給へる報酬に與かるべき方法を考へなば、決して一生を過つことおかるべし。そは常に我と我身の用心を苟にすることおければなり。廣ろき世の中に何人か誘惑されざるものやある、もとより誘惑にも品々と種類いあれども、實際何人

も皆誘惑を免れ得べからず。年老ひし人も幼き者も、賢き人も愚かなる者も、貧富貴賤の差別なく、人間の生涯は長き誘惑の歴史とや言はめ、不運の時にも誘惑あり、幸運れ時よも誘惑あり、病める時にも健かなる時にも、貧しき時にも富める時にも誘惑あり、年若きものゐも誘惑あり、年老ひたるものよも又あり。肉体の歓樂い吾等を誘ふて神に不忠ならしめ、其苦痛は却て吾等を神に背かしむるなり、惡魔は主キリストよなせる如くに又吾等をも今は希望の門を叩かしめ、又忽ちにして恐怖の戸を訪はしむるなり、間斷なき惡魔の誘惑こそ實に恐しけを。

されば吾等は如何ゐして此惡魔を拒くべきか。言ふまでもなし。神の武具を身に裝ひ、「我勢力は汝に足る」と宣へる神の力よ依り頼み、全力を盡し。必勝を期して此を拒ぐべし。然れとも吾等屢々これを忘れ、やゝもすれば己の力を頼そて肉慾を逞ふし恰から昔ダビデがペリステ人と戰

はんとてサウルの不似合なる戎衣を着したらん如き愚なる行爲をなせることあるは、實に悲しむべき事共なり。抑も誘惑なるものは眞に人間の生命に關るものにて決して忽せにすべきことゐあらず。なか〳〵に自己の虚弱き力よりては拒き得べくもあらず、我慢執拗の思念をゐげすて、謙遜りてひたすら神に依り頼み、上よりの力を得ざるべからず、されば吾等が力を神より得たる神の力、則ち祈禱をなし聖書を讀み聖餐に與かりて得たる力たらしめたきものゐらずや。願くはエサウの誇れる如き暴々しき浮世の力にあらで、天の使と角力りて勝ち得たるヤコブの力こそ得まほしけれ。さらばヤコブは如何にして勝ち得たるか、神の祝福を享けぬ間ハ、決して止まざる熱涙熱禱を以てにあらずや。吾等ハ確信す吾等若し自己の力を頼み、情慾の欲するがまゝに任せゐば、些細なる誘惑も尚堪へ能はざるべけれども、之に反して神の力に依り頼

み、神の戎衣を着け神の祝福を求めなば如何なる強烈しき誘惑も堪へ能はざることなかるべし。

されどもこゝに我等の注意せざるべからざることゐり。そハ誘惑の其始より拒ぐべき事にて、これ又た實に最も良き方法なり。もと〳〵誘惑ハ弱きものゐて人間は割合に強きものゐれども、不注意に慢然と誘惑の中にゐたら歳月を過しなば、誘惑は次第次第に生長發達し漸次に積る力はなか〳〵に當り難く、遂ゐハ却て人間の虚弱きを感するに至るべし、されば今未た誘惑の赤兒なる中に、心して之を大人たるに至らしむる勿れ。終にハ死を以て戰はざるべからざるに至らん。此誘惑は實に我等が心情を射貫く惡魔の箭とも云ふべきものにて使徒パウロハ之を火箭と呼びなせり。必竟するに古代の戰爭ゐは火箭こそ第一等の武器なりしゐれ、一たび之を敵の城中ゑ投ずれば炎々と焔ゐ立つ火勢ハ

早やくも其城壘を陷るゝに至る火箭の勢力の強烈しさ、人の心を誘ふ悪魔の力もまたこれに等しければなり。されば城中にては用心怠りあく此恐しき火箭の飛び來るや、直ちに之を熄し止むるにあらでは到底落城の禍を免るゝ能はざるべし。

その如く誘惑も悪魔の使用ふる火箭あれば、一たびこれ射られなば罪悪の焔忽ち心の中に燃え立ち、地獄の火の未だ焔々と燃ゆあがらぬ中に之を熄しとめずば遂には如何ともすると能はざるに至るべし。誠に警戒すべきことにこそ。炎々と天を焦し一夜の間に巨邑大都をも燒き拂ふ大火も、其始は幼き小童の手にて掬びしだけの水さへあれば、熄しとむるに何の造作もあきものたりしなり。其樣に人の生命を滅す程に恐しき勢力ある罪悪も其始は我身の四周に彷徨へる誘惑にして、若し初めより注意して之を拒ぎしあらば二度とは近づき來

らざりしものを。汝の子をとり之を石に衝き碎くものは幸福なり」と古昔聖なる詩人れ歌ひし言ひ、何やら殘忍至極の樣に聞ゆれども、決して然にはあらず、そは若し悪魔の子則ち罪なる思念、罪なる希望あらば其赤兒の中に神の律法にて打滅すこそよけれ。かるが故に若しダビデにして身持を正し、耳目の慾を制して速やかに誘惑を壓倒せしあらば、あの醜しき行はしまじかりしものを。

常の折にては誘惑は、其始はいと少さきものにて只人々の怠慢不注意なるより、遂に大罪悪を孕むに至ると云へども、又往々これと異りたる折もなきにあらず。則ち始より勢力甚だ強く、全身の力を出して拒ぎすい到底これを壓倒することの出來ざるものあり。故にかゝる折わい吾々基督教信徒たるものは一層の謹慎をなし、誘惑の至らぬ前に自分よりその備をなさゞるべからず、豫じめ備することこそ大事なれ。敵味方

入亂れ、戰爭始りてはじめて鎧の紐をしめ、俄かに劍を磨くが如きことは、決して忠良なる兵士のなさゞることにて、敵の軍勢雲霞の如く國の四境に押寄せて、俄かに陸海軍の備を致せばとて、將た何のかいあるべき。世間廣しと云へども何人も何時誘惑さらるゝかを前以て知る人はあらず。昔ヨセフと云へる人ありゝ、思掛なくも誘惑され、淫亂なる女主人ゐ罪惡ゑ誘いれたりしが、ヨセフは元來正義しき人なりしかば平素その備をなし、熱心に神に祈禱し、神の恩惠に依り清潔貞操の德を養ひ居たりしかば、かゝる時にも罪惡を犯すことゐかりき。されば一朝危急の場合に立ち至り、俄かに神の恩惠の必要を感ずればとて、なか〳〵に得べきことゐあらざるのみか、遂にいあたら誘惑の爲めに身を滅すに至るべし。

されはゆめ〳〵忘れな給ひそ。吾身は誘惑の山なせる世界に住ひ、惡魔の火箭は恰から雨の如く、常に身の四周に飛び來れば、今日心を射られずとも明日にも又其翌日ゐも射來るべし。かゝる時に吾等は速やかに神の恩惠を求めて身の安全を計らずば、時期差迫りて、狼狽俄かに之を求むるとも又遲からずや。

猶又今も此後も數知れぬ誘惑の中に、安全ゐる生涯を送らんと思はゞ吾が靈魂ゐ來る誘惑を拒ぐことを工夫せざるべからず。讀者諸君は知り給はん、使徒ゐの希伯來人に繫ふ罪を拒げと戒めたることを、只此言のみにては少し解し難きかゞもあれど、眞に尤なる言にて靈魂上の生活ゐつひて大切なる眞理を敎ふるなり。吾々の身には多くの罪惡つき繫ふ、こは決して少々にあらず、或折には數知れぬ程に多かるは實に悲しき事共なり。まことに嘆はしき事なゐら罪惡と云ふ事ゝ人間の一ッ風變りたる嗜にて、此嗜は或は其本來の性向より、或は過れる敎育をなせ

るより、或は其身の境遇より或い以前ふどしたることより邪しまある道に進み、かくして罪惡の勢力は正しき精神の力よりも强ふなれるが爲めに生じたるものなり。紙と云ふものは一度しをたるところは如何樣に注意して之を洗除しても他の處よりしみ易くなるものなるが、元來人間の靈魂も其の樣あるもれにて一度罪惡を犯せば、復の時には以前よりも犯し易くなるものあり。瘡も汚もなく大切に靈魂を保たんことなかゝ困難なることなることは、誰にても己れの靈魂上の生活にて何か悲しき經驗ある人は知るところならん。故に此靈魂の上に來る誘惑を拒がんには、何よりも先づ慎まねばあらぬことは、有ゆる罪惡別して身の四周に繁ふ罪惡を警戒しむることにぞある。

以上述たることは重に誘惑の來る大道のみのことなるが、其他に又他の徑路數多あり。これまた忽にすべきとよあらず。要害堅固ゐ千百万の敵も恐るゝに足らぬ、堅城鐵壁も虛弱き一方面の敗れたるために、又落沒の禍ゐ陷るものあり。靈魂上の生活につきては聖書に澤山の謹嚴ある誡訓と例證を載せてあり。ソロモンの如き世に稀なる賢王も、偶像を拜めり。勇俠にして剛膽なるペテロも一人の下婢の罵言を怖れ、自分の信仰と其主を棄たり。吾等は一種特異の誘惑に遇ふことなかるべけれども、これとても確と定め得べきことにあらず。一の罪惡に勝ちたればとて、世に尙數多の罪惡あることを忘るべからず。肉体上の罪惡は拒ぐこと難からざれとも、吾等が心にい驕慢の念起り易きもの故、其虛ゐ罪惡のつけ込める場合は先きに肉体の慾を制し得たる勝利も今は却て精神上に害を與ふる媒介とぞなる。

故に尙基督教信徒の慎まねばあらぬことあり。決して幾千の誘惑に勝てりあど云ひて、苟めにも油斷の心を抱くべからず。惡魔いなかゝ青

蠅きものにて、拂ふても拂ふても又直ちに集り來る。曠野にて試る者三たびまで主基督を襲ひ來り、三たび敗れて遂に主を放れ去れり、其間は實よ少時にして、「聖書」には暫時と記せり。

油斷大敵と昔の人も云ひけん。一の罪惡に勝ち得るときは決してこれにて滿足し、安心し油斷すべからず。又彼の愚昧にして怯懦なる將師の如くこの勝利にて滿足すべからず。勝利に勝利を重ね、猶も其上に勝利を得、只一時の勝利でなく、未來永遠の勝利を期せられよ、此世の中の戰爭にては俘虜を放へし遺るは、寛大にして賢明なる德なれども心靈上の戰にては決して然にあらず、誰れも肉慾の奴隷となること好まざれども、吾等は一体に肉慾を赦し易く恐れわなゝきてこれを責め殺さぬなり。至りて憐憫深き優しき業の様なれども、これ必竟時と場合とを過てることにて昔アガクを赦免せるサウルが利己の憐憫、ペンハダットを赦せるアヘブの薄弱き慈悲と共よ、神の喜び給ふところにあらず。神は吾等に罪惡を滅せと命じ給へり。さるを吾等僅かに之を壓倒し得たるにて滿足し、空しく之を赦免して再び自由の身とならしむるは、まこと神の命よ背けることならずや。昔はイスラエル人神の助により埃及王の手を逃がれ約束の地カナンの土地に到着することを得たりしがイスラエル人は只此處に住居をさへ得れば足れりとし、此上にカナン人を逐ひ出すなどとは、其難儀言ふばかりなければとてカナン人をも共に住ましめ、剩へ之を使役したりしが、カナン人は一時は貢を拂ふて其地に住ひ、恨を呑んでイスラエル人に使役はれ居りしが、遂には却て再びイスラエル人を殘忍くも壓倒する様になり、イスラエル人は復しも恐しき苦難を受くるに至れり。吾等も若し罪惡に勝ち得たりとし、油斷して之を滅さずに置かば、又此のイスラエル人の如く後日大なる苦

難を受け、靈魂の滅亡を見るに至るべし、恐れても恐るべきことにあらずや。これよりは尚彼爾曹を逃け去らんとの約束よつきて申さん。

利發なる讀者は以上述べたる事實が實にもよく此約束に符合ひ、また我身の經驗に引くらべて見ても、誘惑といふ者は倒しても倒しても復た立ち歸るものなれば、二度の患あきまで全くこれを打滅すことの容易ならざるを知り給はん、元來本文に云へることは、熱心よ上手に惡魔と戰ふあらば、此誘惑の張本たる惡魔は二度と吾等を苦しむることなきを敎へたるにあらず。左樣よ本文を解釋するい、まことに不道理なることにて、基督御自身の御生涯よ於てすら然からざりしなり。まことに約束と云ふものは、心情の眞實ある需要に應せるものにして靈魂のために價貴き此約束を得んことは中々以て容易のことゐあらず。こゝに哀れなる誘惑に陷れる人ありとせよ、其人は猛烈しき誘惑の火の中に

あり、今い未だ燼き滅されざれども早晩誘惑の焰は身に燃へ立つ樣に感ずるなり、惡魔は其人の靈魂を窺ひ待てり、幸ひ今まで免れ來れりとは云へ、思へゞ我あがら奇跡かと怪しむばかり、恐ろしき惡魔の誘惑は、斷間なく靈魂を襲ひ來るなり。是に於て其人全く失望して曰へらく「我は常に靈魂上の生活に於て板一枚の下は地獄と云ふべき此恐しき地位に立ち我が心の中に湧き出つる此の不潔汚穢の思想と連綿と戰ひつゝ一生を送らねゞならぬか」と

本文の約束はこれに答へて曰ふ、否とよ、これ決して汝の運命にあらず又決して忠義なる基督の僕の運命にもあらず。故ゐ汝は常に油斷せず用心深く時々刻々誘惑さをぬ樣に注意せざるべからず。而してまた一生の間かくして行かざるべからず。されども先づ己の眼の前に現はれたる、誘惑と云ふ惡魔を拒がば、現在身に來る誘惑も、又此後來る誘惑も

皆試る者の基督を逃げ去りたる如く、直ちに汝より逃げ去らん。かくして汝は身の遭遇せるあらゆる誘惑に打勝ち、其昔汝の救主が汝のために戰つて勝ち給へる後、天の使たち來り、事へたる時の樣なる喜悅をこそ得べけれ。

皆試る者の基督を逃げ去りたる如く、直ちに汝より逃げ去らん。かくして汝は身の遭遇せるあらゆる誘惑に打勝ち、其昔汝の救主が汝のために戰つて勝ち給へる後、天の使たち來り事へたる時の樣なる喜悅をこそ得べけれ。

明治廿七年六月二十九日印刷
明治廿七年七月　日發行

編輯兼發行者　本多庸一
東京府南豐島郡澁谷村一番地東京英和學校內

印刷者　小方仙之助
東京市麹町區有樂町三丁目二番地

發行所　メソヂスト出版舍
東京市京橋區銀座三丁目八番地

印刷所　東京英和學校實業部
東京府南豐島郡澁谷村一番地

164
439

020346-000-1

特52-608

神の報酬と人の義務

リチャルド・チエネウキックス/述

M27

ABI-0152